

| | | | |
|----------------|---|---|--|
| ○事業所名 | 西宮すなご医療福祉センター 放課後等デイサービス ねっこ | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2024年11月13日 | | ～ 2024年11月30日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 13名 | (回答者数) 13名 |
| ○従業者評価実施期間 | 2024年11月11日 | | ～ 2024年11月29日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 3名 | (回答者数) 3名 ※2024年11月29日にスタッフ間で話し合いを実施 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2024年11月29日 | | |
| ○分析結果 | | | |
| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
| 1 | 子どもの発達状況に応じたきめ細かい個別支援及び個別・集団での支援を行っています。 | <ul style="list-style-type: none"> 発達状況に応じた学習支援（教材課題、プリント学習）ができています。 学校の宿題をスタッフと一緒に取り組んでいます。 集団活動では、同年齢や異年齢の子どもとの運動遊びやゲーム、制作活動などを通してルールやコミュニケーションスキルの習得に繋げるよう取り組んでいます。 | <ul style="list-style-type: none"> 子ども同士の関わりの中で、子ども自身の自主性や主体性を導きだせるよう支援を行います。 異年齢の子どもとの関わりではそれぞれの役割や相手への関わり方を意識出来るように支援を行います。 |
| 2 | 個々の発達や特性に応じた活動室の環境整備、設定が可能です。 | <ul style="list-style-type: none"> 室内ではパーテーションを活用し机上活動の部屋と自由遊びの部屋を分けることで目の前の事に集中できる環境設定を行います。また、集団活動では活動内容や人数に合わせて部屋の広さを調整することができています。外遊びでは当センターの敷地内にある中庭で実施するため、安心、安全に身体を動かして遊ぶことができます。 | お子さんの発達や特性に応じたスペースの確保や活用をこれからも継続して考えていきます。 |
| 2 | 当センターの診療部門（医師、リハビリ、心理）と連携を図ってお子さんの支援につなげています。 | お子さんの様子や発達検査の結果等、定期的な会議の場で情報共有を行い、療育プログラムの立案や実際の支援に役立てるようにしています。 | 全てのお子さんが当センターの診療部門をご利用されているわけではないため、まずは当センターの診療部門について丁寧に説明して医療に繋げることができるようになる。もしくは、他の医療機関をご利用されている方に関しては、他機関との情報共有や連携に努めます。 |
| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
| 1 | 小学校高学年以上のお子さんの支援ができていません。 | 多機能型事業所（特例あり）で運営しているため、定員（10名）の関係上、児童発達から上がってくる子どもたちを優先して受け入れを行うと利用年齢の制限を設定せざるを得ません。 | 他の事業所を並行利用されているお子さんも多く、引き続き、事業所同士での連携強化に努めます。さらに当事業所を卒業される方には必要に応じて他事業所を紹介するなど、支援が途切れることがないように努めます。同時に本事業所に在籍していただいている間は、活動プログラムの中で個々の児童の発達や特性を考慮しながらも、様々な経験が積めるよう、魅力的なプログラムの立案に努めています。 |
| 2 | 事業所での送迎を行っています。 | 送迎に必要な車や人員の確保が難しいため送迎ができない状態です。また、療育の時間を確保してより良い支援を提供することを目的として、自主での送迎のお願いをしています。 | お子さんの移動に対する負担を軽減させるため、当センターに設置する駐車場や駐輪場をご利用いただけるようにしています。 |
| 3 | 人員配置基準を満たしているものの、相対的に職員数が少ないです。 | 本事業に限らず当センターが人員不足の状態です。求人募集は常にかけているものの、なかなか人が集まらないのが現状です。 | <ul style="list-style-type: none"> 2024年12月より保育士（1名）を増員しました。 経験豊富な職員を配置し、資格を十分に活かして日々の療育にあたります。さらに事業所内の体制の見直しや調整を行い、OJTや研修などを通して療育の質を高める取り組みを行います。 職員の急な休みに対しては、必要に応じて当センターの別部門の職員（保育士）が療育に参加して支援を行うようにしており、引き続き、当センター内での連携体制の強化にも努めます。 |